

西宮のきのこ封入標本と夙川松の健全化プロジェクト

漆崎文子・河上浩・北川万里・松原久・三上博栄（西宮市きのこクラブOB会）

はじめに

西宮市きのこクラブOB会は、西宮市が主催する市民講座「きのこクラブ」の受講修了者で構成され、西宮市の甲山におけるきのこの定点観察を月1～2回、周辺地域での観察を月1回行っています。

採集したきのこは、乾燥標本または凍結乾燥（フリーズドライ）後に樹脂封入標本にし、西宮市北山緑化植物園に常設展示しています。また、一部のきのこについては継代培養を行っています。

夙川松の健全化プロジェクトは、夙川河川敷の松（クロマツ）に有効な菌根菌を共生させて樹勢を回復させることを目指し、西宮市との協働事業として2010年に着手しました。



ポスター発表

方法

クロマツの樹勢を回復するためには、菌根菌と共生した発根の促進が必要であり、そのために効果のある土壌改良資材を選定する目的で、西宮市と協働してつぎの活動を行っています。

① 共生させる菌根菌の胞子液の作成

菌根菌の子実体（きのこ）を夙川河川敷で採取する。

松の根に共生させるための胞子液を作成し、資材化する。

② 菌根菌胞子液の散布

松が着床している土壌を数十 cm 掘り、土壌改良資材を入れる。

菌根菌の胞子液をジョウロで散布し、埋め戻す。

③ 確認と評価

翌年または4年後などの時点で掘り返し、松の根と菌根菌の共生状況を確認し、土壌改良資材の評価を行う。



菌根菌胞子液の散布



松根に活着した菌根

結果と考察

以上の活動により、松に共生させる土壌改良資材と施用手法が確立できれば、各地の松並木や松林にも適用でき、全国の松樹の健全育成が期待できます。

西宮市では、これまでに効果を検証できた菌根菌と確認できた手法による本格施用を、一昨年度より実施し、さらに施用範囲を広げる事業に取り組んでいます。

当会は、これらの活動に対して、これからも協働による支援を行う予定です。